

## 第1章 ベールを脱いだ再洗礼派

May 10, 2014

### 再洗礼派に対する先入観

Q：16世紀の問題児の一派が今の時代とどんな関係があるのか？

A：(1) 問題児とされた経緯

16世紀前半はカトリック教会とプロテスタントの改革者たちが主役。政治権力闘争と相俟って混乱し、その後、西ヨーロッパはカトリックかプロテスタントに領土が分割された。住民はそのいずれかに同調することが求められた。しかし、再洗礼派はいずれの領土でも歓迎されず。再洗礼派は国教会の要求に従うことを拒否。信仰においても慣習においても支配者に追従しなかったため、迫害を受け、トラブルメーカーとみなされた。

体制側には；①異端的な考えを教え、②非公認の教会を起こし、③イエスに従う決心をしてから洗礼を受けるよう呼びかけ（幼児洗礼の否定）、④武力（暴力）や富の正当性に異議を唱え、あらゆる言行によって体制の現状を危うくしていると、見られていた。（今では、以上の悉くは体制側の間違いであることが認められるようになった）

結局、アナバプテストには自由に信仰を守ることのできる分割領土がなかったため、時には保護を受けることがあっても、殆んど追放や拘束という迫害に遭った。

この迫害の中で過激な反応として、アナバプテストの一派が起こしたミュンスター事件（1534～1535年）や裸の行進事件があった。

#### <ミュンスター事件>

キリストの再臨が間近であるという確信を持った一派が、ドイツ北部の都市ミュンスターの実権を握って、恐怖政治を行い、都市の浄化を図ろうとした。カトリックの軍隊に包囲され、住民は虐殺され、首謀者は殺され遺体は晒し者にされた。

↓

その結果：大半のアナバプテストはこの事件を糾弾したが、ヨーロッパ中のカトリック、プロテスタントの当局者たちはアナバプテストを危険分子ときめつけた。そして、教会史の脚注の一部にアナバプテストを追いやる一方で、こうした事件を大きく取り上げて、アナバプテストを否定的に論じ、歴史家も实际的検証をしないまま過ごしてきた。

(2) アナバプテスト見直しのきっかけ

①ほぼ半世紀前から、歴史家たちが再洗礼派を真剣に研究し始めた→→アナバプテストが急進的な教会再生運動であることを発見→→ミュンスター事件や裸の行進は例外的事件であることがわかった。

②クリスダム時代の行き詰まり

Q：それぞれの属する教派があるのに、なぜ他教派のアナバプティズムに関心を持つのか？

A：アナバプティズムは16世紀版の新興教会。アナバプテストは言語や文化も異なる人々

がその信仰の中核において他の教派にない共通する特徴と行動様式を持ってはいたものの、一つの教派教団になることもなかった。

- ・今日、アナバプティズムの流れを汲む教団、共同体として：  
メノナイト教会、メノナイトブレザレン、フッタライト、アーミッシュ、キリスト兄弟団、ブレザレン教会などがある。
- ・アナバプテストに関心を抱く人たちとして：  
聖公会、長老派、カトリック、クエーカー、メソジスト、バプテストの人たちがいる。

彼らは転会希望ではなく、それぞれの個人生活、所属教会、教団をより実りあるものにするために、アナバプティズムを一つの伝統として取り入れようとしている。  
(ポスト教派時代)

Q：アナバプテストは洗礼問題に執着していたのでは？

A：16世紀当時、「洗礼」は重要な問題であった。

- ・当時の考え方：「幼児洗礼」＝子供たちをキリスト教社会に受け入れること＝国家の一員として受け入れること。
- ・アナバプテストの考え方：「洗礼」＝イエスに従う決心をし、教会共同体に献身する人だけに授けられるもの（幼児洗礼は聖書的根拠がなく、本来の洗礼ではない）。アナバプテストは信仰者の教会（believers' church）を目指し、聖書の事例が教会の伝統に優先すると考えた。  
当時は革命的であった以上のような考え方は、今日、殆んどの社会で認知されているばかりか、標準モデルとなっている。

Q：アナバプテストは分離派で隠遁主義？

A：分離主義と言われた傾向は当時の歴史的な脈の中で考えられなければならない。迫害される側の選択肢は限られている。存続のためには社会からの分離を余儀なくされた。

アナバプティズムは核心において宣教的——聞く耳を持つ者には誰にでも宣教する。しかし、分離主義的姿勢は聖書的根拠がある。新旧約聖書のいずれにおいても神の民は、世から分離され、世に倣わなかった。イエスに従う者は社会との関係において見極めが必要。

Q：再洗礼派はみな平和主義者？

A：いかなる時代においても、すべての再洗礼派が平和主義だったわけではない。それでもなお彼らの典型的特徴は平和主義、非暴力、非戦。再洗礼派は意見が異なる相手を迫害したり、強制的に改宗させたりはしない。平和主義はキリスト教全体に寄与する恵み。